

## Stay Home: 私の百低名山の体験（1）山への目覚め！

### 80才を迎えるに当たり断捨離～山行記録・写真も整理して思い出を纏めてみた。

- \*日本ではよくある風景だが海に迫った日立市に生まれ、1945年4才の時には防空壕に入ってB29の空襲を避けたり、海からの艦砲射撃を受け母に手を引かれて裸足で山に逃げた記憶はのみ鮮やかに残っている。思えば、これが山との付き合い初めだった。
- \*小学生の頃、親父、良き木村先生に連れられて茨城県の山を歩き、初心忘れなかったのかな～と回顧。
- \*大学生時代には友人と流行の日本アルプスなどに登り、時には家にあった新田次郎『孤高の人』等を読み耽ったからであろうか。その後、山好きならご存知の**日本百名山**（深田久弥）は山岳雑誌『山と高原』に掲載された後1964年に新潮社・新潮文庫として発刊された。主に1500m以上の基準で選定されているが、それ以下も茨城県の山**筑波山**及び開聞岳、伊吹山、万三郎岳山の4山が含まれている。
- \***社会人**となつてからは行動も思うに任せず、中年のある時期3年程はストレス解消に**一人ぼっちの休日山行**。50代半ばに入り**第2社会人**となつて、職場の関係で鎌倉市に移り住み**東海道～御殿場線沿線の名山を堪能**出来たのは幸いであつた。
- \***70才**で終に卒業して**真の社会人**となつては体力の限界も感じつつ、低山を登る！に転換しました。**従つて、今回の体験談は百名山、百低山の何でも御座れ！**です。
- \***80才**にして、その経過と思い出を纏めてみたい。長丁場の自己満足に過ぎませんが関心のある方はどうぞ！

先ず最初に子どもの頃の記憶を頭から叩き出しながら～頭の体操・連想ゲーム～で辿ってみたい。

記憶のネタ本は（ふるさといばらきの山、茨城の山と溪谷、茨城の自然100選）等です。

**少年期**に諏訪の梅林。小5,6担任の木村先生（大恩師）に休日に連れられて**高鈴山** 623mへ滑りながら登つた思い出、遠足で水晶山へ～小さな水晶の破片石ころを皆で採取。**神峰山** 598mは今は公園・動物園で有名。近くに日本鉱業・銅精錬所の大煙突、当時は煙害対策で156mの高さは東洋一と言われた。

**中学期**は遠足だったかな～**筑波山**（女体山）876m、男体山は稍低く870mに登山。奈良朝初期に出た『常陸風土記』によれば大衆遊樂登山をしたそうな！関東平野に独立峰として富士山同様に目立つ存在で、**日本百名山の一つになった**。気象観測所、地震研究所が設置され、戦後は電波銀座となった。弁慶七戻り、ガマ石は有名。切り傷等に効くと言うガマ油をお土産に買った。その他、真弓山、風神山等、趣ある低山。

以後は電車通学で環境が変化し、また**高校期**は大阪に引越し言葉も大きく違ったこともあり格別な体験が無かつた。従つて次回は大学期を展望します。



高鈴山と筑波山（当時の写真無く借用失礼）：今は暑熱・地球危機で花も消えつつあるようで残念